



残暑御見舞い申し上げます

暦の上ではもう秋ですがまだまだ暑い日が続いております。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年もお盆が過ぎましたが、皆様お盆の前にはお墓へお参りに行かれたでしょうか。お盆やお彼岸前後の通信では毎回同じことを書かせて頂いておりますが、お墓参りの際には出来る限りご家族揃って、特に小さいお子様やお孫様は是非一緒に連れて行って頂きたいと思っております。ご先祖様を大事にする(お盆やお彼岸には必ずお墓参りに行く)という心を小さい頃から覚えていると必ず親や家族を大切にする大人に育ちます。

近年では跡継ぎがない(娘さんしかおられない)とか子供に後々迷惑が掛かるからといった理由でお墓の処分をされる方がずいぶん増えてきております。様々な事情があたりだとは思いますが、我々の立場と

しては非常に悲しい出来事だなあと毎回感じております。お墓参りは家族との絆を自然と深めていける最高の時間だと私は思っています。確かにお墓を維持していくには管理費など様々な費用がかかってきますし、この不況の世の中ですので負担にはなるかもしれません。しかし費用が掛かってもお墓を代々守っていくことはすごく大事で、親から子へ、子から孫へとその家庭の風習や意志を引き継いでいけるのは人間以外の動物には出来ない素晴らしいことだと思います。

というわけで秋のお彼岸には是非家族で時間を作ってお墓参りに行って下さい！

m(_)_m



しょうじぐちよしひろ
5代目 小路口 欣弘
編集 ブログ更新中

続 お墓にまつわるエピソード集 ～お墓物語～

前号に引き続き、この冊子の中から私が感銘を受けた作品をご紹介します。

タイトル 「家族の縁をつなぐお墓」 37歳 女性

昨年八月、母の兄が亡くなりました。癌があちこちに転移し、手術が出来ない状態でした。私は実家から離れた隣県に住んでいます。母から叔父の他界した事を告げられた時、少し悩みました。『私もお葬式に出席した方が良いのかな…。でも最近は交流がなかったし、仕事だし…。』欠勤することがネックで考えましたが、母の辛そうな声を聞き、参列することに決めました。

早々に支度をし、電車で飛び乗りました。電車で揺られながら、『帰るんだな…。』と思いました。仕事や日々の生活に追われ、実家に帰ることが面倒だと思っていたので、久しぶりの帰省です。『電話を受けて、その日に帰省するなんて…。お葬式や事故の知らせくらいか…。』と考えていました。

お葬式の日、私は妹の喪服を借り、両親、妹夫婦と共に葬儀場へと向かいました。会場には多くの人が集まり、懐かしい顔もたくさんありました。入口で、よく遊んでもらった叔母さんに私だと気付いてもらえないくらい、久しぶりの再会だった人もいました。お葬式ですが、悲しい雰囲気だけではなく、和やかな空気が、そこには確かにありました。悲しみを共有しながらも近況を伝え合う頃、お墓へ向かう時間となりました。親族で向かい、手を合わせました。私はふと父に、『どうしてお墓ってあると思う？ 仏壇だけじゃなくて？』と聞きました。

父は『うん、やはり家族が一つのお墓に入れば、そこに皆が集まるでしょう。疎遠になっている人と会う事が出来たり。そういう役目をしてくれるっていうのが、お墓だと思うよ。』と、言ったのです。先祖供養の為だけではなく、その子孫の縁をつなぐ役目をしてくれる…。そういう視点でお墓を考えたことがなかったので、正に目からウロコでした。なるほど。実家と疎遠になりつつあった私も、叔父のお陰で、こうして家族と時を過ごしていただけるのだと実感しました。家族の縁をつないでくれるお墓を大切にしていこうと思っています。



ご希望の方全員に
プレゼント致します。

知っているとタメになる豆知識



お彼岸にはなぜお墓参りをするの？

まだまだ暑い日が続いていますが、もうすぐ秋がやってきますね。秋といえば読書にスポーツに食欲など色々なことにやる気が湧いてくる季節だとは思いますが私達の業界では秋といえばやっぱり秋のお彼岸、そう、お墓参りのシーズンでしょう（^^）

今回はそんな秋のお彼岸について少し解説をしてみたいと思います。

皆様は一言でお彼岸、といってもその言葉の意味はご存知でしょうか？実はお彼岸という言葉は仏教用語で『煩惱を脱した悟りの境地』という意味で、煩惱や迷いに満ちた私達のいるこの世の中を此岸（しがん）というのに対して彼岸という言葉があるのです。お彼岸は1年に2回、春と秋にありまして、春のお彼岸は春分の日、秋のお彼岸は秋分の日を中日とした前後の3日間、計7日間のことを言います。なぜ2回かと言いますと、浄土教（浄土宗・浄土真宗・融通念佛宗など）の教えで阿弥陀様のおられる極楽浄土の世界は西方にあり、春分の日と秋分の日に真西に沈んでいく夕日を拝んで熱心に念仏を唱えれば必ず極楽に往生することが出来ると説いたことにあるようです。また元来は中日はご先祖様に感謝をし、残る6日間は自分自身が悟りの境地に達するために必要な行を行う為にあるとされていたようですが、いつの間にかご先祖様を供養する行事として定着していったようです。現在では皆様もよくご存知の通り、お仏壇の掃除やお墓参り、お寺の彼岸会や施餓鬼法要などへのお参りがお彼岸の行事となっています。

少し難しい説明になったかもしれませんが、お彼岸はご先祖様に感謝の念を抱き、今自分が生きていることへの感謝をし、充実した毎日を送るために自分自身を見つめ直す良い機会だということですね（^^）



いいことがいっぱい起こる ✨

「思い通りにならないことに ありがとうと言う」 フツダの言葉

あるカップルが旅行の計画を立てていました。ところが、彼は中国に行きたいと言い、彼女はアメリカへ行きたいと言って採めた結果、行き先が決まらず計画が中止になりそうになりました。でも、一緒に楽しく旅行をするという本来の目的さえ忘れなければ、自分の希望に意固地にならずに折れるとか、全然候補になかった他の国へ行くことで、想定外のものすごく楽しい経験が出来るかもしれません。

『上司は無能だし同僚たちも当てにならない。仕事がうまくいかないのも仕方がない』とグチを言う人がいたら、その人自身が、無能で当てにならないことを証明しているようなものです。出来る人は、思い通りにならない事態を目の前にしたら、『誰も当てにできないから、自分が頑張って仕事をしよう。そうすれば自分の仕事力も高まる』と前向きに受け止め、自分を成長させる絶好のチャンスに変えます。

何事も自分の思い通りになったら、この世で学ぶべきことはなくなります。思い通りにならないから、人は学べるのです。そして世の中には、思い通りにならない経験からしか学べないことがたくさんあるのです。

思い通りにならない状況を喜び、学ぶ。

小 路 口 石 材 通 信



植西聡 著書
『いいこと』がいっぱい起こる！
フツダの言葉 より

発行元

しょうじくち

小路口石材工業株式会社

〒591-8034

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町
1-13

フリーダイヤル

0120-78-5461

FAX 072-278-5463

Eメール

y-shojiguchisekizai@

dance.ocn.ne.jp

ご感想お寄せ下さい